

懇 談 会 の 趣 旨

本県においては、国際化や情報化をはじめとする社会の進展の中で、新しい時代を担うにふさわしい自立心に富む人間を育成することをめざして、昭和59年に愛知県中等教育問題研究協議会を設置し、本県における中等教育の改善に向けて広い視野から総合的な検討を行いました。その第3次答申（昭和61年4月19日）において、愛知県公立高等学校の入学者選抜制度については、公立高等学校への受験機会を拡大するとともに志願する高等学校を自由に選択できるようにするなどのねらいをもって、それまでの学校群制度を廃止し、推薦入学と2回の受験機会を有する一般入学を併用した複合選抜方式による入学者選抜制度を導入する旨の提言が行われ、平成元年度入学者選抜からこれを実施しております。

この制度は、公立高等学校の普通科については、学区内のすべての高等学校を二つの群に分け、各群をさらにA、B二つのグループに分け、専門学科については、県内のすべての高等学校をA、B二つのグループに分けたうえで、志願者はそれぞれのグループから1校を受験可能とすることで学校選択の自由を確保するとともに受験機会の複数化を実現し、あわせて全校・全学科で推薦入学を実施するところに大きな特色があります。

すでにこの制度も15回の実施を経ており、現在各県で進められております選抜制度の多様化や評価尺度の多元化をめざす一連の高校入試改革の動きを先取りしたものとして評価され、おおむね県民の理解を得て定着しております。この間、教育委員会といたしましては、英語のリスニングテストを導入したり、中学校において欠席の多い生徒を対象に自己申告書の提出を認めたり、あるいは調査書と学力検査の比重の弾力化を図ったりするなど、時代状況を踏まえた課題にも積極的に取り組み、制度を補完する必要な改善を図ってまいりました。

しかしながら、複数受験の機会を確保する上で重要な意味をもつ群及びA、Bのグループ分けについては、短期間での変更による受験生の不安や進路指導上の混乱を防ぐとの配慮から、群及びA、Bグループを構成する高等学校の組み替えは行わないまま現在に至っております。その結果、当初は群及びグループが均質となるよう構成されておりましたが、各地域における少子化の進展や交通事情の変化などを背景に、群及びグループ間における総募集人員数の不均衡などの課題が生じてきております。

また、現在、本県においては、県立高等学校の再編整備計画に基づき、県立高等学校の再編統合による総合学科など新しいタイプの学校づくりや普通科へのコース制の導入、専門学科の学科改編など、より魅力と活力ある学校づくりが計画的に進められております。この計画の趣旨を生かすためにも、入学者選抜において、いずれの地域の子どもたちも特色ある多くの学校の中から自分に合った学校を幅広く選択することができるようにしていくことが必要となっております。

こうした観点を踏まえ、愛知県公立高等学校の入学者選抜における群及びグループのあり方に関する諸課題とその改善について幅広い視点からご懇談をいただき、現行制度の良さをさらに生かすことができるようご提言をお願いします。